

談話室

「自らを信じる力」を支える



看護学部 助教 長内志津子

バンクーバーオリンピック、フィギュアスケートの高橋大輔選手の演技を皆さんは覚えていませんか。「自信」とは読んで字のごとく、自らを信じることでしょ...

す。私たちは失敗自体を恐れ、自分を信じられないことが多いのではないのでしょうか。看護師は、病いと共に生きる人...

体や心理・社会的側面の変化によって健康を揺るがされた方が、「その人らしさ」や「自分を信じる力(自信)」を持ち続けられるように支援することが役割です...

研究紹介 ⑩

哲学の「なり」

文学部 准教授 鎌田 学

本学での主な担当科目は、一、二年次生のための基礎および教養科目である。大づかみに言えば、哲学、論理学、倫理学、美学...

の研究テーマに含まれている。哲学は、言うまでもなく、役立たない「死んだもの」ではなく、各人が生きる上で実践する「生きたもの」であるはずである...

よく自分の講義の中で、「現代先進国における『標準』の考え方は、以下の通りです。」と言って話を切り出すことがあるが、これは先の「普遍的なメッセージ」を学生諸君に伝えるための前口上である...

特別企画

キャリア教育セミナー

就職課長 小嶋 定雄

十月二十八日から毎週木曜日本学で、特別企画キャリア教育セミナー「二〇一〇年就職力実戦講座」を五週連続で開講しました...

学生一人ひとりの人間としての総合力を高め、将来社会人として自立していくための支援をすることが狙いでした。今回の特別企画は、以前から就職課で行っている「就活力実践講座」に出席している文学部・社会福祉学部...

この教育セミナーは、春から毎週木曜日に実施しているキャリア教育をより実践的な内容にする(Philosophieren)とは、欧米文化を鏡にして自己自身、あるいは日本を映し出す営みということができるとも思えない。

看護学部 第6回リカレント教育を終えて

看護学部リカレント教育委員会委員長 阿部テル子

地域貢献の一つとして、開学と同時に始まった本学看護学部のリカレント教育も、今年で6回目を迎えました。厳しい酷暑の9月25日から晩秋の風情の10月30日までの1ヶ月間、隔週で土曜日の午後、「臨床実践に役立つ看護研究のあり方」をテーマに教育プログラムが実施されました...

「研究課題を設定するまで」「テーマを絞って研究計画を立てよう」「看護研究に活かせる情報処理」「研究論文のまとめ方で構成し、講義は本学看護学部教員の他に岩手県立大学看護学部から講師をお招きして行いました。参加者の中には午前中の勤務を終えて参加した人、厳しい勤務の合間の少ししかない休日を返上して参加した人などさまざまであったと思われま...

援も行っており、昨年末で県内の2つの病院で看護者の研究支援を行ってまいりました。今年からは1つの病院から要請があり、指導を行うことになりました。本学看護学部リカレント教育が、このような形で少しでも地域の看護職者のお役に立つことができることは、本研修の企画者として喜びであり、今後も皆様の役に立てるように努力していきたいと思っております。



学生たちは、講師の厳しい指導の下で印象の良い返事の仕方や報告・連絡・相談の大切さ等をロールプレイングを通して学びました。

2010 学内就職セミナー 弘前学院大学独自の企業説明会 2011年 1月12日(水) 午後1時~4時まで 場所 弘前学院大学 体育館 いながらにして企業を知るチャンス!! 合同就職委員会



(写真 陸奥新報社提供)

実習を通して

社会福祉学部三年 関本 夢生



私は、今年の夏、藤崎町にある児童デイサービスセンターかたつむり実習をさせて頂きました。実習期間は利用している児童たちも夏休み中で、1日中児童と接することができたので、遊び、食事着替えや排泄介助あらゆる場面でコミュニケーションをとることができ、とても充実した実習だったと思います。しかし、実習中は体調を崩してしまったり、職員の方とのコミュニケーションが上手く取れなかった為に、失敗してしまうことが多々ありました。積極的に児童ひとりひとりの特徴やどのような障害を抱えているのか、児童の家庭状況などを自発的に聞くべきだったので、私たち実習生がどこまで関わって良いのか、ど

精神保健福祉援助実習を終えて

社会福祉学部四年 奈良 俊興



私は、弘前愛成会病院で、実習を行いました。実習当初、私は、患者様と話をしなければいけないという気持ちで空回りをしていました。もともと私自身、人と話しをすることが得意な方ではないこともあり、実習を振り返ると、と

程度までの情報を聞いても良いのか分からずに、実習期間を過ごしてしまいました。もっと積極的に職員の方とコミュニケーションを取り、児童について聞くことができなければ、もっと良い実習となっていたかもしれない、児童に對してもっと良い支援ができたかもしれない、と少し後悔しています。しかし、実習に参加したことにより、自発性や障害を抱える児童の問題、対応の仕方、支援方法を学ぶことができました。これから福祉の道に進むにあたって、今回の実習のように対応や支援、ニーズ把握などいろいろな場面で悩むことがたくさんあると思います。が、挫けることなく頑張っていきたいと思えます。

今回の実習を通して、自分が社会福祉を選択し、将来は福祉職に就きたいと改めて強く感じました。これからは、国家試験合格に向けて頑張っていきたいです。

教育実習を終えて

日本語・日本文学科四年 古谷 由布子



私は、五月十五日から六月十一日まで、母校であるむつ市立大畑中学校で教育実習をさせて頂きました。二年一組の担当となり、授業は一組と二組の二クラスで行いました。

実習中の四週間は、かつて自分が通った母校とは思えない、まるで異空間に飛び込んだような気持ちでした。とにかく、驚きと戸惑いと不安とで、精神的に一杯一杯だったのです。

また、授業に関しては、時間配分の難しさを感じました。大分学で模擬授業は行いましたが、五十分間を丸ごと使って授業するのは初めての経験でした。そのため、一回の授業では達成しきれない目標を設定してしまうことが多々ありました。目標が多すぎるために、時間が足りなくなり、何を教えたい授業なのかも曖昧になってしまいました。

また、授業に於いては、時間の難しさを感ずりました。大分学で模擬授業は行いましたが、五十分間を丸ごと使って授業するのは初めての経験でした。そのため、一回の授業では達成しきれない目標を設定してしまうことが多々ありました。目標が多すぎるために、時間が足りなくなり、何を教えたい授業なのかも曖昧になってしまいました。

また、授業に於いては、時間の難しさを感ずりました。大分学で模擬授業は行いましたが、五十分間を丸ごと使って授業するのは初めての経験でした。そのため、一回の授業では達成しきれない目標を設定してしまうことが多々ありました。目標が多すぎるために、時間が足りなくなり、何を教えたい授業なのかも曖昧になってしまいました。

またコミュニケーションについては、一週間だけ、デイケアで実習をさせて頂いた時に、一人のメンバーの方から、「なぜデイケアに来なければいけないのか」という質問をされました。この方は、デイケアに来る条件で退院し、デイケアに来る目的を明確に持っていない方でした。そして私は、この質問をされたときに、私が何かを言うて、この方が来なくなってしまうのが怖いと感じ、結局質問に答えることができませんでした。このことを振り返ると、質問を

考えた末に実行したのは、生徒が毎日提出する家庭学習ノートにコメントを書くということでした。授業のことや部活動のこと、生徒の趣味などについてコメントする中で、生徒一人一人に目を配ることの大変さを実感しました。しばらく続けるうちに、生徒が返事を書いてくれるようになり、私自身も生徒のことを知る事が出来て、徐々にコミュニケーションを取れるようになりました。

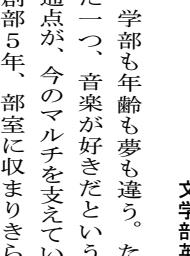
また、授業に於いては、時間の難しさを感ずりました。大分学で模擬授業は行いましたが、五十分間を丸ごと使って授業するのは初めての経験でした。そのため、一回の授業では達成しきれない目標を設定してしまうことが多々ありました。目標が多すぎるために、時間が足りなくなり、何を教えたい授業なのかも曖昧になってしまいました。

また、授業に於いては、時間の難しさを感ずりました。大分学で模擬授業は行いましたが、五十分間を丸ごと使って授業するのは初めての経験でした。そのため、一回の授業では達成しきれない目標を設定してしまうことが多々ありました。目標が多すぎるために、時間が足りなくなり、何を教えたい授業なのかも曖昧になってしまいました。

また、授業に於いては、時間の難しさを感ずりました。大分学で模擬授業は行いましたが、五十分間を丸ごと使って授業するのは初めての経験でした。そのため、一回の授業では達成しきれない目標を設定してしまうことが多々ありました。目標が多すぎるために、時間が足りなくなり、何を教えたい授業なのかも曖昧になってしまいました。

クラブ紹介

文学部英語・英米文学科三年 園 歌穂



学部も年齢も夢も違う。たつた一つ、音楽が好きだという共通点がある。今のマルチを支えている。創部5年、部室に収まりきらなくなった楽器は310教室に、20人を超えた部員は410教室を拠点にしている。

よく、「マルチってどんなことしているサークルなの？」と聞かれる。名前だけ聞いたらダンスでもやっついそうな名称であるが、実は普通の吹奏楽部。時々ボランティアなどでミュージックベルなども演奏するので、「多様に活動するサークル」ということから、先輩がこの名をつけたそうだ。この名の通り、ボランティアに参加したり、学園祭で演奏したりと、活動の幅を広げている。私が3年の夏には、施設で開かれたお祭りに参加し、歌あり、ダンスありの演奏会を体育館で行うこ

とができた。冬に参加しているボランティアでは、楽器の他に、ミュージックベル使い、クリスマス曲を奏することができた。

硬式テニスサークル

社会福祉学部 社会福祉学科四年 大塚 真人

こんにちは、硬式テニスサークルです。硬式テニスサークルは文字通りひたすら、雨の日も、風の日も、もちろん晴れてる日も一年中テニスをするサークルです。と言っても今年まだ5回程しかテニスしてないような。まあ、そんなテニスサークルですが、部員は約20人で7割方が未経験者です。しかし、経験者も自分も含め何人か籍にしているので未経験者に教えるながら

主な一年間の活動内容は、春は入学式で新入生を必死で集めて、新入生との交流を深めます。弘前では春になるときれいな桜も咲きます。その桜の木の下で新入生を交えてお花見をするのも毎年の恒例となっています。夏はテニスの練習はもちろん、合宿や大会の参加などをしていきます。秋は学校のビジュアルイベントとして弘学祭があります。テニスサークルはそこでフランクフルトを部員総出で仲良く販売しています。一本150円で

弘学祭に来たときは、是非フランクフルトを買ってください。けつこう美味いんですよ！冬はテニスなどあらゆる行動が制限されるので基本的には冬眠期間に入ります。一年間を通しての活動はこんな感じです。他にもいろいろなお祭りがありますが、それは入部してからのお楽しみということで。最後にありますが、テニスサー

クルに在籍しているメンバーはそれぞれ個性豊かな人たちがばかりで、一緒にいて飽きることはありません。そんな人たちが一緒にテニスやいろんな事を共にしてみませんか？テニスにちよつとでも興味のある方、テニスを経験した事があるという方、そんな方のサークル参加をテニスサークルは心よりお待ちしています。



第3回 ヒロガク福祉創造フォーラム

実行委員長 社会福祉学部 二年 佐藤 知美



二〇一〇年十一月七日(日)、本学社会福祉学部主催である第三回ヒロガク福祉創造フォーラムが開催されました。今年、「ソーシャルワーカーとコミュニケーション〜愛〜」がテーマでした。当日は本学学生、教職

員の他に、福祉の現場で働く方々や地域の方々、本学卒業生、全体で約二五〇名の方々が会場に足を運んでくださいました。午前中は基調講演が行われました。社会福祉士の資格をお持ちである三上富士子さん(知的障害者更生施設さくら園支援係長)に「ソーシャルワーカーの考えるコミュニケーション」と題してお話していただきました。続いて、会場の体育館にて施設販売が行われました。この施設販売では、就労サポートひろさき、な

英語弁論大会

英語英米文学会会長 佐藤 和博



英語英米文学会は、11月25日、11時15分から、第一回英語弁論大会を、本学礼拝堂で開催しました。学生、大学院生の英語能力(会話、文法、文章力)の向上が目的で、今年度初めて企画されました。「なぜあなたにとって英語の勉強は重要なのか」をテーマにして、6名の学生が、日頃鍛えた英語能力を競うために参加しました。



吉岡利忠学長(審査委員長)ら審査員4人の前で、学生達は、原稿を見ることなく、またよどみなく、それぞれ約5分の持ち時間で、英語を学ぶことにたいする強い思いを披露していただきました。スピーチを聴いた観客からは、堂々とした発表に対して、大きな拍手が送られました。審査の結果は以下の通りで、それぞれ、賞品が贈られました。金賞、大溝由加理さん(文学部 英語英米文学科4年)。銀賞、平川麻衣子さん(同学科1年)。銅賞、工藤光平君(同学科1年)。

園、ゆいもある、大石の里、以上六施設に本店のご協力をさせていただきました。手作りのおいしいパンやクッキーを販売していただき、昼食時は多くの人で賑わいました。午後は、(現場の方々と一緒に)「社会福祉の古典名著を読む」ワークショップが行われました。川村和康さん(地域生活支援事業所すみれ所長 精神保健福祉士)に助言者として参加していただき、生江孝之(1867-1957)の著書「日本基督教社会事業史」を読み進め、ハンセン病やその歴史などについて理解を深めました。続いて、「実習を通して学んだコミュニケーション」と題して実習報告が行われました。発表者として

児童福祉分野から木村優太さん(社会福祉学部三年)、老人福祉分野から対馬登貴子さん(同三年)、障害者福祉分野から米澤拓也さん(同三年)、市町村社会福祉協議会について工藤安都さん(同三年)、精神科病院について菅野美沙子さん(同四年)、精神障害者入所授産施設について工藤由依さん(同四年)、助言者として佐藤優輝さん(児童養護施設弘前愛成園児童指導員、高橋久孔さん(知的障害者授産施設せせらぎの園生活指導員兼作業指導員)、大井宏征さん(精神障害者入所授産施設大石の里施設長)に参加していただきました。以上のプログラムを無事に全て終えることができたのも、たく

さんの方のご協力や支えがあったからこそだと思っております。今回のテーマについて参加者の皆さんと共に模索し、考えを深めた経験は、私たち学生にとって将来に繋がる大きな財産となりました。本当にありがとうございました。ごさいました。

東日本大会結果報告

社会福祉学部三年 部長 野呂 成昭

私達野球部は十一月十六日から十一月二十日に千葉県で行われた東日本大学軟式野球大会に奥羽地区代表として出場しました。初戦は日本大学経済学部と戦い、先制点は取られましたが、その後すぐに追いつき、主将の三年工藤安都のヒットで逆転し、その後投手の一年村上良輔が抑え、2-1で勝ちました。続く二回戦は札幌学院大学と戦い、初回に点数を取られましたが、その後満塁のチャンスを作り、四年工藤純輝のヒットで三点を奪い逆転しました。五回にも一点を取り、その後一点は取られましたが、何とか逃げ切りました。しかし、初出場ベスト8、さらに奥羽地区代表として初のベスト8という結果を残すことができました。限られた時間で練習できない中で、一人ひとりが考えながら練習を重ねてきた成果だと思えます。また、全

試合集中力を切らさず、全力で望むことができました。今回の大会を通して一人ひとりが何か得るものがあり、チームとして成長できたと思います。最後に東日本大会出場にあたって支援してくださった大学の先生方、関係者の皆様へ深く感謝と御礼を申し上げます。

文化祭

今年も弘学祭が開催され皆様のご協力のもと無事に終えることができました。今年は「弘学今年やるはんで!!」と津軽弁を用いたテーマとさせていただきます。このテーマは、今までで一番印象に残る学祭を開催したいという気持ち、それと同時に私達祭行委員が学祭の前線に立ち皆様の引張っていくということ、自分達の仕事であるイベントや模擬店を全身全霊をかけて成功に導く努力をして行こうという気持ち込みました。しかし、私達の力だけでは学祭は成功させることが難しく、困難を要することもありました。ですが、皆様のご協力、ご支援をいただき私達学祭実行委員は順調に学祭の準備・運営を行う

ことができました。今年も弘学祭が開催され皆様のご協力のもと無事に終えることができました。今年は「弘学今年やるはんで!!」と津軽弁を用いたテーマとさせていただきます。このテーマは、今までで一番印象に残る学祭を開催したいという気持ち、それと同時に私達祭行委員が学祭の前線に立ち皆様の引張っていくということ、自分達の仕事であるイベントや模擬店を全身全霊をかけて成功に導く努力をして行こうという気持ち込みました。しかし、私達の力だけでは学祭は成功させることが難しく、困難を要することもありました。ですが、皆様のご協力、ご支援をいただき私達学祭実行委員は順調に学祭の準備・運営を行う

ことができました。今年も弘学祭が開催され皆様のご協力のもと無事に終えることができました。今年は「弘学今年やるはんで!!」と津軽弁を用いたテーマとさせていただきます。このテーマは、今までで一番印象に残る学祭を開催したいという気持ち、それと同時に私達祭行委員が学祭の前線に立ち皆様の引張っていくということ、自分達の仕事であるイベントや模擬店を全身全霊をかけて成功に導く努力をして行こうという気持ち込みました。しかし、私達の力だけでは学祭は成功させることが難しく、困難を要することもありました。ですが、皆様のご協力、ご支援をいただき私達学祭実行委員は順調に学祭の準備・運営を行う

ことができました。今年も弘学祭が開催され皆様のご協力のもと無事に終えることができました。今年は「弘学今年やるはんで!!」と津軽弁を用いたテーマとさせていただきます。このテーマは、今までで一番印象に残る学祭を開催したいという気持ち、それと同時に私達祭行委員が学祭の前線に立ち皆様の引張っていくということ、自分達の仕事であるイベントや模擬店を全身全霊をかけて成功に導く努力をして行こうという気持ち込みました。しかし、私達の力だけでは学祭は成功させることが難しく、困難を要することもありました。ですが、皆様のご協力、ご支援をいただき私達学祭実行委員は順調に学祭の準備・運営を行う

弘前学院大学 学位記授与式

2010年度

- 文学部 第37回
- 社会福祉学部 第9回
- 看護学部 第3回
- 大学院社会福祉学研究所 第7回
- 大学院文学部研究科修士課程 第5回

日時：二〇一一年三月十九日(土)午前10時

場所：弘前学院大学 体育館

卒業礼拝

日時：二〇一一年三月十八日(金)午前10時

場所：礼拝堂

*礼拝終了後、体育館において学位記授与式のリハーサルを行います。

本学教員の研究・教育がNHK番組に

— 学生も出演 —

本学文学部の今村かほる准教授と看護学部の工藤千賀子講師の研究・実践が、「見直される医療現場の方言教育」というタイトルでNHKの番組に取り上げられました。これは、医療現場で働く医師や看護師の「患者の津軽弁がわからない」という実態を受けて、方言についての本学の取り組みを伝えたものです。番組名・放送日は以下の通りでした。

- 「あつぶるワイド」(青森県内向け) 12月13日
- 「おはよう東北」(東北六県向け) 12月14日
- 「おはよう日本」(全国向け) 12月16日

番組内では、文学部「日本語学B」や看護学部「基礎看護技術演習I」の授業風景、教員へのインタビューなどが紹介されました。マスコミにおいてこのように注目されるという事は、地域に根ざす大学としての本学のあり方や、その高い教育水準を示す一歩となるものと考えます。(文責 文学部 井上諭一 日本語・日本文学科長)

皆に忘れないでほしいです。委員長として今回の学祭では、